

「元気・本気・根気 地域と共にある学校」をめざして

下関市立関西小学校

学校運営協議会について

①委員の構成

15名（自治会役員、PTA元役員、地域の方々、教職員）

②実施回数

年に3回予定

③主な協議内容

- ・本年度の学校運営方針の説明及び承認
- ・学校支援や協力してもらいたい事柄についての協議
- ・保護者向け「学校評価アンケート」結果と取組についての評価と協議

④コーディネーターの活動

- ・協議日程について各委員との連絡・調整



協議の様子

特色ある活動

【文洋校区小中連携運営協議会】

- ・2つの小学校と中学校の校内組織と地域の運営協議会を連動させた協議の実施
- ・3プロジェクト（「豊かな心」「確かな学び」「健やかな育ち」）毎に、義務教育9年間を意識した取組を検討
- ・子供の安全についての協議

【地域貢献活動】小中で連携して

- ・「あいさつ」「ゴミ拾い」（おはピカDay）を中心に中学校区内で年間5回実施
- ・中学校区で地域の合同クリーン作戦
- ・地区文化祭・リトルプサンフェスタへの出演

【学校支援活動】

- ・地域・PTA見守り隊による「登下校の見守り活動」
- ・ボランティアサークル「にこにこ文庫」の読み聞かせ活動
- ・5・6年の家庭科（ミシン・裁縫）の授業支援
- ・体育館の暗幕修繕・壁面塗装ボランティア
- ・「お花クラブ」クラブ活動での支援
- ・地域商店街「グリーンモール」での職場体験学習



暗幕ボランティア



リトルプサンフェスタ出演

来年度に向けて

- ・学校支援をさらに充実させるために、保護者や地域の方々への呼びかけや人材発掘を推進していくことが必要と考えています。地域の方々や保護者の方々と一緒になって進めていくことで、児童が様々な体験をし、多様な年代の大人と触れ合い、一人ひとりに寄り添った指導が可能となります。今後も様々な場面で学校支援を呼びかけていきたいと思っております。

「^{ひとみ}瞳輝き、^{ひたい}額に汗する桜山っ子」をめざして

下関市立桜山小学校

学校運営協議会について

①実施回数

年間5回開催(1回は文洋中学校区の拡大運営協議会)

②主な協議内容

- ・本年度の活動計画及び反省について
- ・熟議「学校課題解決に向けて」「文洋校区でめざす子ども像の実現に向けて」
- ・全校研究授業及び授業検討会への参加

特色ある活動

◆地域の方の学校支援活動【学習支援】

校外学習の引率やプール指導での安全管理、調理実習や裁縫などの家庭科授業での支援の他、本校では学校課題である学力向上に係る支援を行っています。

一つはきめ細かい指導を徹底するために少人数化した、算数の授業における個に応じた支援です。授業者との連携を密にしながら、個別の支援を行うと共に、問題の添削も行っています。そのため、子供たちにとって「わかる」「できる」授業を提供することが可能になっています。

もう一つは、月曜と金曜の放課後に行う宿題を中心とした家庭学習支援です。これは、家庭的な事情で学習習慣の定着が困難な児童に対し、学習できる環境を提供し、教員、保護者、地域の方が分からない問題をサポートするものです。これまで、宿題の提出が困難であった児童も、「できた」と言って、持ってくるようになりました。



◆地域貢献【文洋中学校区共通で行う挨拶・ゴミ拾い運動「おはぴかDAY」】

毎月11日は、下関市「安全・安心の日」です。この日に合わせて、文洋中学校区1中学校・2小学校で共通して挨拶・ゴミ拾い運動「おはぴかDAY」を行っています。今年度から、児童会が主体となって全校児童に呼びかけるだけでなく、地域への広報活動も行っています。そのため、地域での認知度も上がり、地域の方からも挨拶をされることが増えてきています。また、この活動は縦割り班を活用したもので、縦割り班活動の活性化にも役立っています。



来年度に向けて

- ・昨年度末開設した「保護者相談室」の活用がほとんどなかったため、認知度を上げる必要があります。
- ・学力向上をはじめとして、業務改善、危機管理等、学校運営に関わる問題への議論を活発にし、学校運営協議会の学校運営への主体的な参画を進める必要があります。
- ・運営委員の構成について再考し、活性化していく必要があります。

地域が育てる目の前の学校 学校が育てる目の前の子どもたちの未来

下関市立文洋中学校

学校運営協議会について

- 文洋校区連合運営協議会（関西小学校・桜山小学校・文洋中学校）H30.9.14 実施
 - ・小中連携の趣旨について
 - ・熟議 「文洋校区でめざす子ども像の実現に向けて」

《文洋校区でめざす子ども像》
スローガン；『夢に向かって、地域と共に伸びる文洋っ子』

豊かな心プロジェクト：明るく自分からあいさつできる生徒を育てるために多くの生徒を巻き込むチラシを活用して広く知ってもらう。

確かな学びプロジェクト：本校だからできる教育活動、文洋らしさをうちだす宿題の出し方を考える・小中連携共通してできることを行う。

健やかな育ちプロジェクト：子供が自立していない。自分で考えて行動できる生徒を育て取組を行う。美・礼・時・立腰をしっかりと行う。小学校との連携を強化する。

特色ある活動

○地域協育ネット（まちづくり協議会）との連携
ボランティア団体「Kananowa」が中心になって行う照子親（てらこや）活動では、小学生から中学生までの幅広い発達段階の児童・生徒に学習支援や、体験支援を行っています。長期の休業中には、本校の家庭科室で毎日100食以上の昼食を手作りで提供しています。

本校生徒は、小学生を指導する立場に関わっており、自己有用感の育成につながっています。

○小・中・高連携の地域貢献活動（おはピカ Day、美化ボランティア）の推進

「おはピカ Day」は、毎月原則11日に校区内の小・中・高等学校が連携して行う「あいさつ&ゴミ拾い運動」です。「美化ボランティア」は、中学生が小学生と小学校校区のゴミ拾いを行う活動です。

どちらも地域貢献の活動として定着しており、生徒のボランティア精神の育成につながっています。



来年度に向けて

いずれもこれまで時間をかけて定着してきた活動ですが、「例年通り」の取組になってしまうがちです。それぞれの活動の目的を、生徒にしっかり考えさせて、何のためにこの活動を行うのかを理解した上で、継続を図っていきます。